

# AIオンデマンド交通導入による他分野が共創したまちづくりの創出

応募様式A

長門市共創プラットフォーム

## 事業の基礎情報

実施主体	長門市共創プラットフォーム
事業実施地域	山口県長門市
共創の類型	官民共創・交通事業者間共創・他分野共創
他分野共創の類型	医療・介護・福祉・子ども・子育て・教育・スポーツ・文化・商業・農業・宅配・物流 エネルギー・環境・地域・移住・金融・保険・観光・まちづくり・その他（該当する類型がない場合に記載）
共創パートナー	長門市公共交通協議会、MaaS開発・導入事業者、医療・福祉機関、商業施設、教育機関、他の交通事業者
運行形態	AIオンデマンド交通サービス【4条乗合タクシー】
運行主体	デマンド交通運行事業者（市街地区：長門山電タクシー（有）、富士第一交通（有））

## 現状・課題

### （地域公共交通の現状・課題に関する分析）

長門市では、だれもがどこでも最低限の交通サービスを受用できるまちを目指して、デマンド交通を市内全域に導入し、令和4年度に交通空白地域を解消した。しかし、人口減少（H22年度～R2年度：15.2%減少）、高齢化率（R2年度44.1%）、高齢者の運転免許保有率（R2年度61.9%）の上昇から、公共交通利用者自体が減少しており、市街地区デマンド交通の、平均利用者数/日は、1人程度に止まっている現状である。住民の移動ニーズを踏まえた更なる利便性の向上と、需給バランスの取れた効率的かつ持続的な公共交通サービスが求められている。

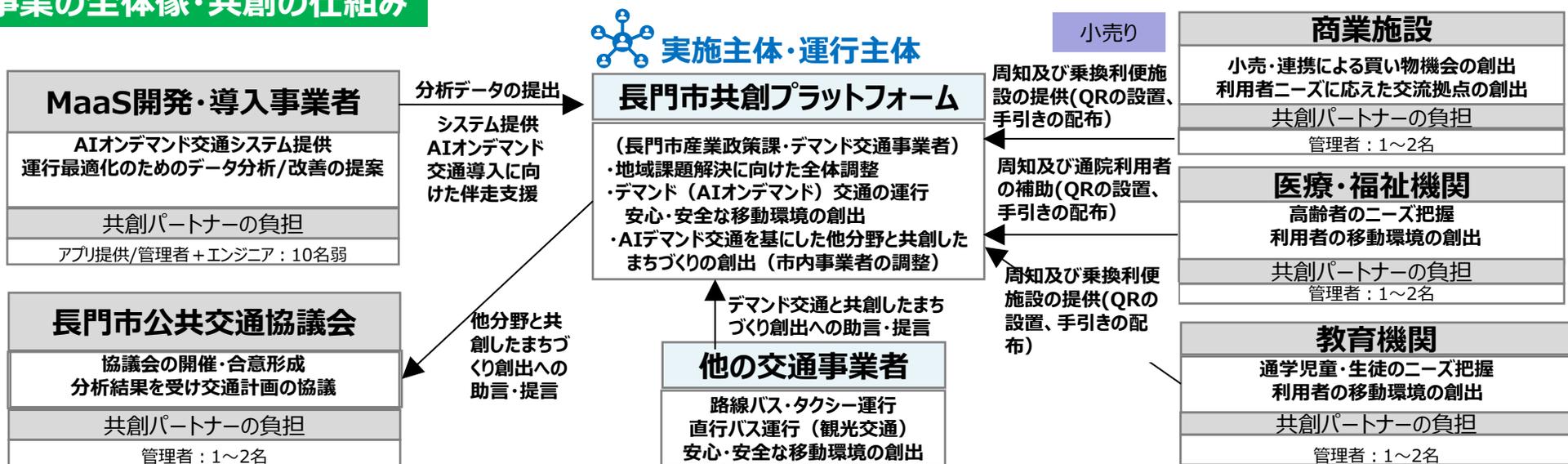
これらの課題の解決にむけて、AIオンデマンド交通を導入し、利用者動線の可視化、分析をすることで、デマンド交通の利便性向上と効率化を図る。また、商業施設、医療機関等と連携することで、住民の移動ニーズを把握し、他の交通モードとの接続改善を図り、持続的な公共交通サービスを構築することができる

<ul style="list-style-type: none"> <li>地域公共交通計画への位置づけ（位置づけ予定を含む）</li> </ul>	有 オンデマンド交通の実証実験	運輸局・運輸支局への事前相談	山口運輸支局
令和5年度共創モデル実証プロジェクトの補助有無	無		

# AIオンデマンド交通導入による他分野が共創したまちづくりの創出

## 長門市共創プラットフォーム

### 事業の全体像・共創の仕組み



### 取組の概要

#### (事業の概要)

- ① アルゴリズムを活用したAIオンデマンド交通を導入し、長門市街地区の地域公共交通の利便性を向上させる。
- ② 商業施設や医療機関との連携をおこない、高齢者の買い物機会創出及び地域公共交通の利用を促進させる。
- ③ 教育機関との連携をおこない、通学児童・生徒の安心・安全で快適な環境創出及び地域公共交通の利便性を向上させる。
- ④ AIオンデマンド交通のデータ分析により利用者の動態を可視化させ、事業者を含めた最適なAIオンデマンド運行のサービスを提供する。

#### (地域の関係者との連携・協働)

AIオンデマンド交通の導入だけでなく、地域の商業施設と連携することにより、AIオンデマンド交通の最適化にとどまらず、買い物・外出機会の創出、地域活性化に努める。また、医療機関と連携を行うことで高齢者のニーズ把握、移動機会確保、利便性の向上により活気のある「まちづくり」にも繋げる。加えて、教育機関とも連携を行うことで通学児童・生徒のニーズ把握や、移動機会確保することで、誰もが安心・安全で暮らしやすい街づくりを目指す。

#### (地域公共交通ネットワークや既存交通との関係性)

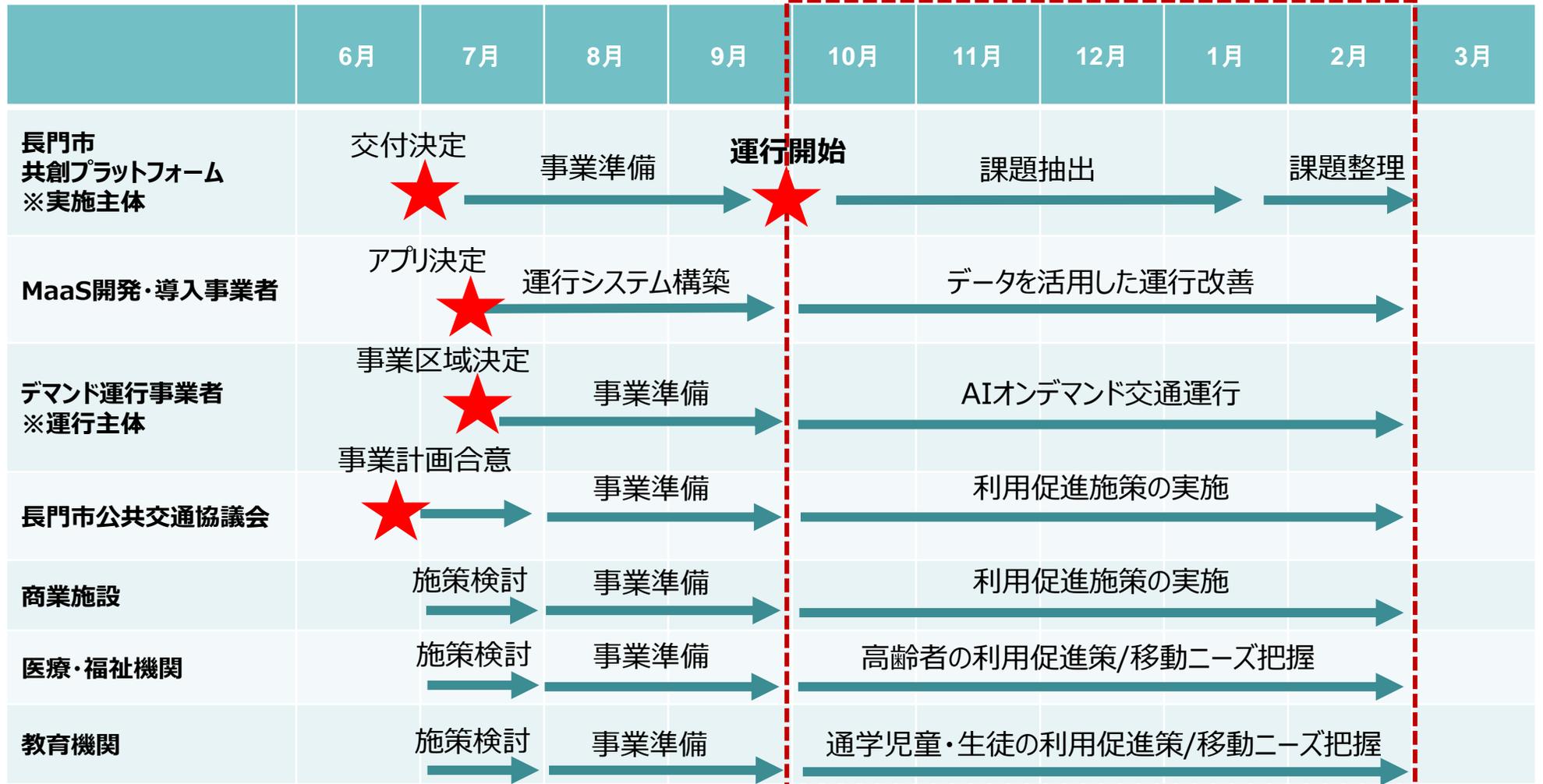
A I オンデマンド交通を導入し、利便性を高めるとともに、データ分析結果を活用してデマンド交通の効率化をすることで、路線バスなど他の交通モードとの連携が容易になる。本実証事件で有効な結果が得られた場合、必要条件を満たす地域において A i オンデマンド交通への横展開を推進する。

# AIオンデマンド交通導入による他分野が共創したまちづくりの創出

## 事業実施手順・スケジュール

全体のプロジェクト管理は**MaaS開発・導入事業者**が実施。10月1日より運行を開始し、データ活用した運行改善を適宜実施することで、短いサイクルでサービス最適化を図る。

共創モデル実証事業期間



## 取組の詳細

### (地域交通にもたらされると想定される効果)

公共交通の利用者増加

R5年度市街地区デマンド交通の利用者 0.80人/日

【AIオンデマンド交通導入後】

- ・利用者数/日：10人/日
- ・データの可視化による市内全域のオンデマンド交通運行の改善
- ・路線バスなど他の地域公共交通モードとのアクセス改善

### (地域全体に及ぶと想定される効果)

- ①長門市内の回遊性向上による地域公共交通の利用者数増加
- ②商業施設、医療機関への送客、高齢者の外出促進及び教育機関への送迎
- ③データの可視化やアプリ内決済による市内の地域公共交通DX推進

※特に以下の効果が想定される場合は、その項目に○をつけ（複数選択可）、当該内容について上記に具体的に記載してください。

<input type="radio"/>	新たな移動手段の創出や各種送迎への地域住民の混乗などによる、地域住民の利便性向上	貨客混載や各種送迎の公共交通への集約など、交通事業者や地域の関係者の生産性向上
<input type="radio"/>	乗降データを取得する等、データを活用して、事業検証ができる環境整備	通院者や商業施設の利用者に関する情報など、他分野の移動需要に関するデータの利活用

### (補助事業実施後の予定)

令和6年度の実証において、AIオンデマンド交通の効果検証を行い、実証運行で得られた課題や必要条件等を整理し、必要条件を満たす地域においては、AIオンデマンド運行への横展開を推進する。令和7年度以降は、得られたデータを分析・活用し、観光交通を含めた最適な地域公共交通サービス体系を提示することで、各地域公共交通における人材の最適人数を検討する。市内全域で持続可能な高い交通網の構築を目指す。また、地域の商業施設、医療機関とも連携を図り、さらなる外出機会を創出し、加えて、教育機関とも連携を図ることで児童・生徒の通学を確保して、安心・安全で快適な「まちづくり」を目指す。資金については、地域公共交通サービスの単体で収益性をとらえるのではなく、商業施設への送客や観光客の周遊性を向上する取り組みを行うことで、地域活性化による市全域での持続可能なまちづくりを構築していく。

資金面	令和6年度は長門市でAIアプリ導入経費を予算化済、またデマンド交通運行経費も予算上済である。 令和7年度以降は市内全体の活性化を図り、持続可能なまちづくりのモデル体系を構築
人材面（運転手の確保）	令和6年度は観光交通を含めた最適な交通サービス体系を提示し、各交通における人材の最適人数を検討 令和7年度は地域内での雇用創出を行い、地域公共交通事業者の負担を軽減。市内全域での最適なモデル体系を構築